

**（仮称）福山城を核とした
ナイトタイムエコノミー基本方針
素案**

福 山 市

2024年（令和6年）2月

1 基本方針の策定趣旨

本市では、福山城築城400年記念事業として、福山城天守、石垣、ふくやま美術館プロムナードなどで夜間景観照明の整備が行われ、ライトアップによる夜間の新たな魅力が生まれています。

本方針は、築城400年の賑わいを継続させるとともに、福山駅周辺の夜間や早朝を快適な空間にすることを目的に、ナイトタイムエコノミーの基本的な考え方や方向性を示すものです。



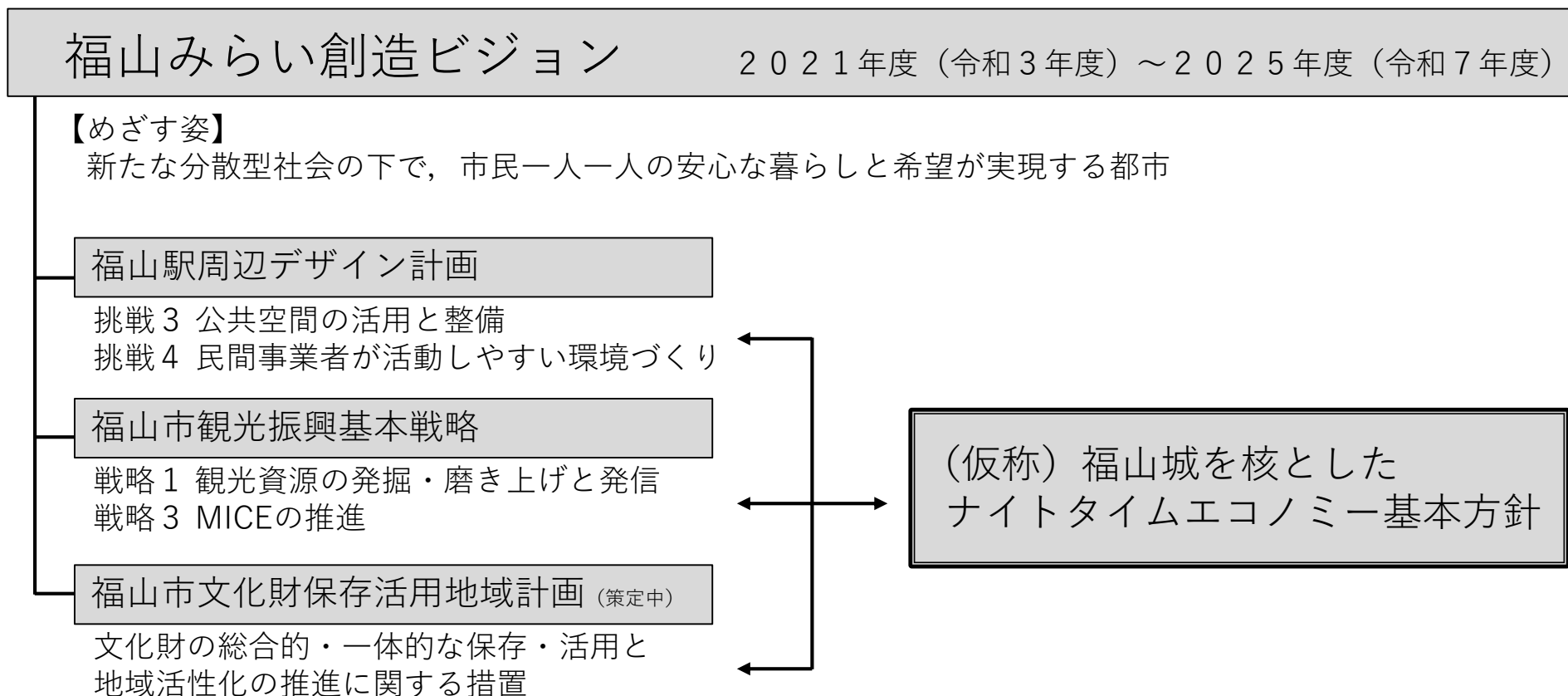
福山城



ふくやま美術館プロムナード

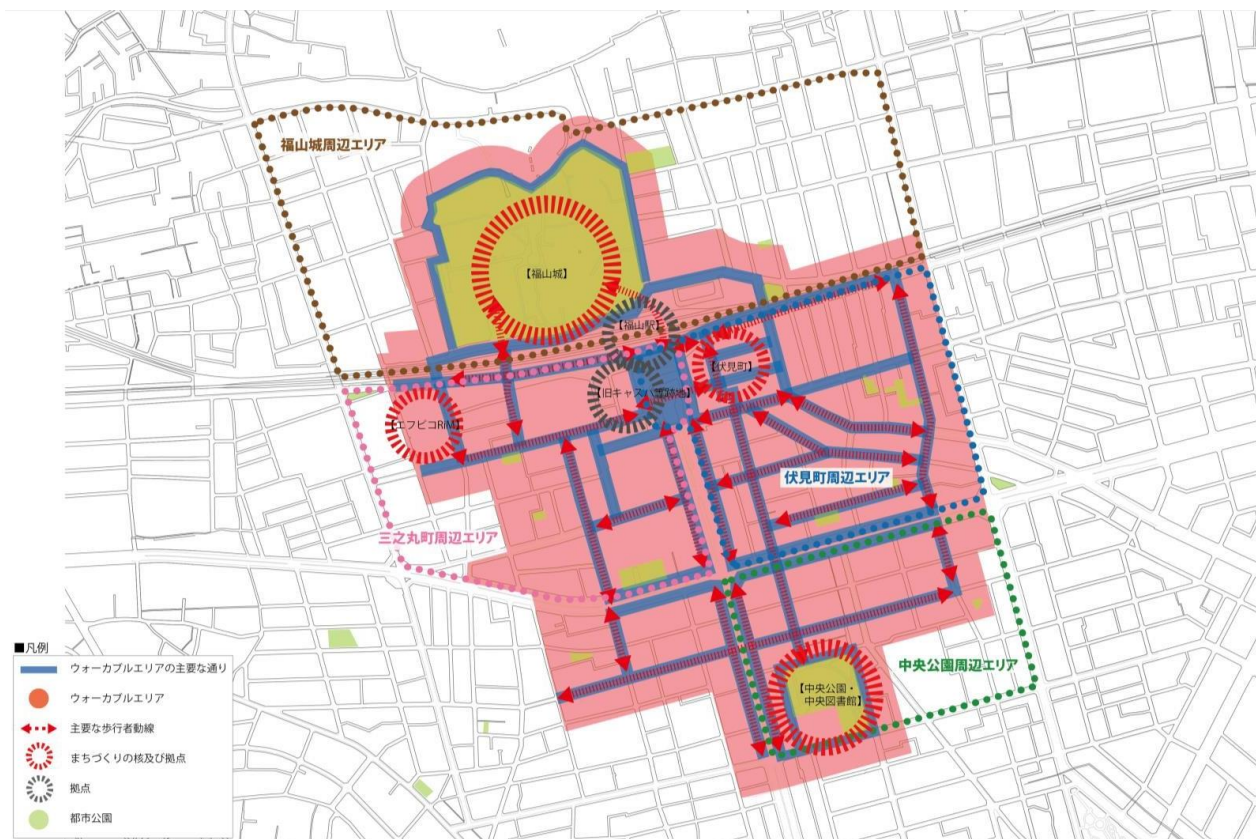
2 基本方針の位置付け

本方針は、本市の都市づくりの方針となる「福山みらい創造ビジョン」に基づく「福山駅周辺デザイン計画」，「福山市観光振興基本戦略」，「福山市文化財保存活用地域計画（策定中）」との整合性を図りながら、ナイトタイムエコノミーに関する方針を示すものです。



3 対象地域

本方針の対象地域は、福山城のライトアップを活用し、福山駅周辺の経済活動を中心に波及させる観点から、「福山駅周辺デザイン計画」において定めるウォーカブルエリアを基本とします。



福山駅周辺におけるウォーカブルエリア

4 これまでの取組

【福山駅周辺の再生】

福山駅周辺を市内外から人を引き付ける魅力あるエリアとするため、新たな賑わいの創出に取り組んでいます。

官民連携による公共空間の活用にも取り組み、居心地良く、歩いて楽しい空間への転換を進めています。

【福山城築城400年記念事業】

天守等の耐震改修、博物館の展示リニューアル、夜間景観照明、樹木・史跡の整備などにより新たな魅力が創出され、その魅力を市内外に発信しました。

【ポスト築城400事業】

築城400年を契機に大規模改修された福山城などを活用し、まちの魅力を向上させるため、様々な取組・イベントが行われています。



福山駅前再生ビジョン イメージ図



ライトアップされた福山城



福山城キャッスルステイ（城泊）実証実験



福山ナイトキャッスル



ナイトラウンジ（天守最上階「天空の間」）

4 これまでの取組

【MICE※の推進】

福山城などのユニークベニュー（特別感や地域特性を演出できる会場）を活用しながらMICEの開催を推進しています。

※企業などの会議，企業などが行う報奨・研修旅行，国際機関・団体，学会などが行う国際会議，展示会・見本市，イベントなどのビジネスイベントの総称

【毎土夜店，福山夏まつり】

福山駅周辺の商店街などにおいて，毎土夜店や福山夏まつり（二上がりおどり大会や福山ゆかたまつりなど）が夏の風物詩として定着し，多くの人で賑わっています。

【歩行者利便増進道路（通称「ほこみち」），国家戦略特別区域】

福山駅前では，道路占用許可の基準が緩和される「ほこみち」制度などを活用し，賑わいのある道路空間の構築に取り組んでいます。



天守前広場を活用したMICE



月見櫓を活用したMICE



毎土夜店



二上がりおどり大会



道路空間の利活用
(アイネスフクヤマHPより)

5 課題

- 福山城築城400年記念事業の賑わいを持続させ、さらに市外からも人を呼び込むためには、単年度・単発の取組ではなく、継続的な事業として定着させる必要があります。
- また、ライトアップされた福山城を中心に、福山駅周辺の夜間や早朝の空間に市民が愛着や誇りを持つことが重要です。
- そのためには、提供するコンテンツに、その場所や時期で行う「意味」や「特別感」を持たせることが求められます。
- さらに、多様な主体が活動しやすい仕組みを整備する必要があります。

6 めざす姿



福山城を核として，福山駅周辺において夜間や早朝に市民や観光客が継続的に集い・憩い・楽しむことができる

- 方針 1 築城400年記念事業を活かした賑わいづくり
- 方針 2 取組を福山駅周辺に波及させる連携の促進
- 方針 3 持続可能で多様な主体が活動しやすい環境づくり

7 方針に基づく取組

- 築城400年記念事業で培われた夜間における能や茶会，ジャズフェスティバルなど，歴史・文化的な空間を活かした多彩な事業を年間を通じて実施します。【方針1】
- 福山城桜まつり，毎土夜店，福山夏まつりなど，福山駅周辺における既存のコンテンツと連携し，季節ごとに特色ある事業を実施します。【方針1・2】
- ばらのまち福山国際音楽祭やふくやま美術館などでは，新たな価値や魅力を創出するための夜間における特別公演や開館などを実施します。【方針1・2】
- 誘客を図るほか，福山駅周辺の民間事業者などの連携を促進させるため，「イベントカレンダー」を作成し，情報を発信・共有します。【方針2・3】
- 福山城など※の活用に係るワンストップ窓口を設けるとともに，夜間・早朝における民間事業者などの取組を支援します。【方針3】

※福山城公園内に位置する福山城天守（博物館），月見櫓，御湯殿，福寿会館などの建築物及び福山城公園全体（ふくやま美術館プロムナードなどを含む。）

8 推進体制

福山市，福山観光コンベンション協会，福山商工会議所で構成する「福山ビジットアソシエーション」において，事業の進捗管理及び推進を図ります。

福山ビジットアソシエーション

事務局

福山観光
コンベンション協会

- 基本方針の策定【市】
- 公共空間の利用促進
(ワンストップ窓口)

福山市

- 事業の進捗管理・推進
- 情報発信・プロモーション
(イベントカレンダーの運用など)

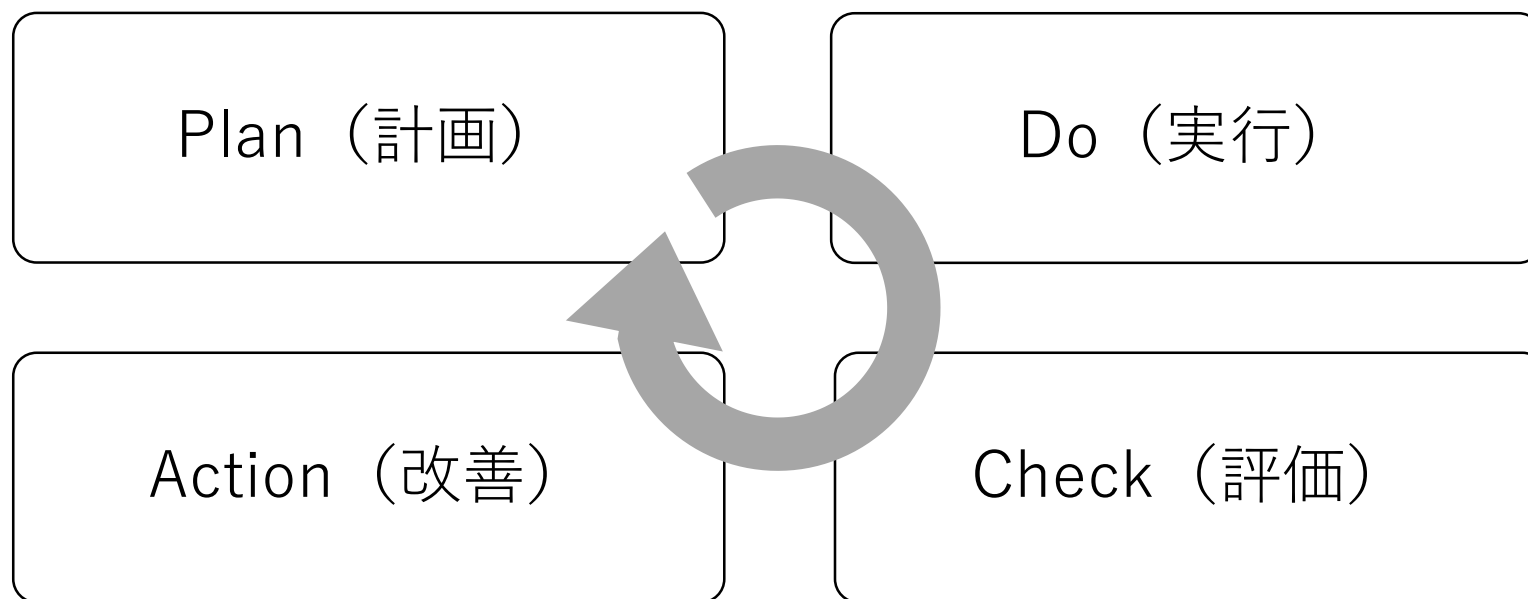
- 民間事業者・関係団体
との連絡調整
- コンテンツの開発支援

福山商工会議所

9 進捗管理と見直し

社会情勢の変化にも柔軟に対応しつつ，PDCAサイクルにより，事業の進捗管理を行い，実施状況を評価・分析して，その結果を次の事業に反映させます。

また，必要に応じて基本方針を見直します。



資料編

基本方針の策定過程

2023年（令和5年）

11月～12月 関係者・団体へのヒアリング

12月27日 第1回懇話会

2024年（令和6年）

1月 関係者・団体へのヒアリング

1月26日 第2回懇話会

2月8日 福山市議会文教経済委員会

2月8日 福山駅前デザイン会議

2月中 第3回懇話会

3月中 福山市MICE推進協議会

3月中 基本方針の策定・公表

懇話会設置要綱

(仮称) 福山城を核としたナイトタイムエコノミー基本方針
策定懇話会設置要綱

(設置)

第1条 (仮称) 福山城を核としたナイトタイムエコノミー基本方針
(以下「基本方針」という。)の策定に当たり、有識者等の意見を
聴取するため、(仮称) 福山城を核としたナイトタイムエコノミー
基本方針策定懇話会(以下「懇話会」という。)を設置する。

(組織)

第2条 懇話会は、委員10名をもって組織する。

2 委員は、別表に掲げる者で構成する。

(任期)

第3条 委員の任期は、基本方針が策定されるまでの期間とする。

(会議)

第4条 懇話会の会議は、市長が招集する。

2 委員がやむを得ない理由により会議に出席できないときは、代理
人を出席させることができる。

3 市長が必要があると認めるときは、委員以外の者を会議へ出席さ
せ、意見を聴取することができる。

(庶務)

第5条 懇話会の庶務は、福山市経済環境局経済部経済総務課が行う。

(雑則)

第6条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定
める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、2023年(令和5年)12月27日から施行する。

(この要綱の失効)

2 この要綱は、(仮称) 福山城を核としたナイトタイムエコノミー
基本方針の策定をもってその効力を失う。

別表(第2条関係)

福山商工会議所 専務理事
福山観光コンベンション協会 専務理事
福山市文化財保護審議会 会長
福山ホテル旅館組合 組合長
福山青年会議所 副理事長
バリューマネジメント株式会社 代表取締役
福山市情報発信アドバイザー
福山市MICE誘致ディレクター
福山市経済環境局経済部長
福山市経済環境局文化観光振興部長

第1回懇話会(2023年(令和5年)12月27日)における主な意見

①ビジョンやテーマ設定, ターゲットなどについて

- ・ 駅近の文化ゾーンとしての特性があり, 特別感を感じてもらうことが重要で, 文化の薫りがする賑わいが望まれる。
- ・ 特別な体験にフォーカスした活用が必要で, 特別な価値を発信することが重要である。
- ・ 定期的に開催し, 定番になって認知されている状況で, 風物詩的に定着することが重要である。
- ・ 今あるコンテンツをどう関連付けて, 活かしていくか, このことが持続可能性につながる。
- ・ 福山に行く(来る)理由をつくる。福山にしかないイベントをピックアップするべき。
- ・ インバウンドが多い大都市圏のナイトタイムというのは例外であり, 市民を主役とするべき。
- ・ ターゲットは, 市民が7・8割で, その上に観光・ビジネス客やインバウンドが乗っかってくるイメージ。そうでないと長続きしない。
- ・ まずは, 市民が参加したいと思うことが重要である。その上で, 観光(滞在時間)を延ばすために夜と朝の活用が求められる。

第1回懇話会(2023年(令和5年)12月27日)における主な意見

②官民の役割分担や環境整備について

- ・ 合意形成が難しい場面や利用制限がある公共施設の利活用は、行政の旗振りが必要である。官民が連携するとスムーズである。
- ・ 行政主導だと抵抗のある人も出てくる。民間事業者のキーマンとパートナーシップを組んで推進することも有効である。
- ・ 現在、福山城や駅前イベントを行っている人が核となる。
- ・ 現在取り組んでいる福山城を活用したイベントと同様に、民間主導でコントロールすべき。ワンストップで使用手続きができる環境づくりも大切である。
- ・ イベント運営は利益が出ないと長続きしない。組織をつくって長続きするものに取り組んでいくべき。

③効果的な情報発信について

- ・ 地元の飲食店は、イベントの実施主体となることもあれば、来場者の受け皿となることができる。情報発信のプレイヤーにもなってほしい。
- ・ 宿泊施設では、フロントスタッフの知識が重要であるが、情報量が少ない。様々な情報がほしい。
- ・ 共通のイベントカレンダーがあればよい。

第1回懇話会(2023年(令和5年)12月27日)における主な意見

④コンテンツのアイデアなどについて

- ・埼玉県行田市で実施している花手水（はなちょうず）は、街歩きが楽しめる。
- ・岡山市中心部の「ちょい飲み手帖」は、ちょい飲みセットが楽しめる店舗を集めたグルメ本で、スマートフォンでの活用も考えられる。
- ・琴や能など、福山にあるソフトと文化財をつなげるのもよい。
- ・美術館や博物館が延長開館していればありがたい。
- ・福山城のライティングで周遊できる仕組みをつくり散策できるようにする。解説サインも充実していると勉強にもなる。
- ・朝のジョギングが人気のため、福山城周辺でジョギングができればよい。ただし、更衣室やシャワー設備などの環境整備が必要となる。
- ・バッキンガム宮殿の衛兵交代は観光コンテンツになっている。城泊の入城体験も観客が見て楽しいものになれば更によい。
- ・以前、商業施設にバットマンロゴを点灯したことがあり、映画の次回作ができた際には、改めて実施するのもよいのではないか。
- ・冬は、限られた人向けの価値の高いコンテンツがあってもよい。開放的な時期と色分けしてもおもしろい。

第1回懇話会(2023年(令和5年)12月27日)における主な意見

④コンテンツのアイデアなどについて（続き）

- ・バスケットボールやサッカーなど地元のプロチームの試合日に合わせたイベントを開催するのも一つの手段である。市外からの来訪も期待でき、飲食や宿泊につながる。
- ・MICE業界では、SDGsの取組が重要視されている。朝、健康的に動きたいビジネス客は多い。ユニークベニューの活用もSDGsの取組とされている。
- ・鞆の浦の夕焼けが見たいために宿泊した人がいた。こうした自然の魅力を磨き上げる視点もある。
- ・駅前芝生広場を設置する実証実験を見て、特別なことではなくても、憩い談笑できる空間があること自体が印象的であった。
- ・朝活や夜活のマップやイベントカレンダーがあればおもしろい。

第1回懇話会(2023年(令和5年)12月27日)における主な意見

⑤その他

- ・ ナイトタイムエコノミーは何のためにするのか，市民は何を求めているのかについて，考える必要がある。
- ・ 子育て世代の来訪が歓迎されているようなイベントが行われている一方で，現状の福山城周辺は，常時，夜間に行ってよい環境であるか疑問である。
- ・ 女性が主導して消費することもあるため，女性の意見をしっかりと聴きながら検討してほしい。

第2回懇話会(2024年(令和6年)1月26日)における主な意見

①めざす姿，方針について

- ・「城下町」を表に出した豊かなイメージで表現できればよい。
 - ・全国的に見たときに、「築城400年」という言葉は、まだ浸透していないため、当面、この言葉を使用していくべき。福山城があること，福山駅周辺が城下町であったことについて，考える機会を提供するべき。
 - ・滞在時間の延伸や宿泊率の向上など，ナイトタイムエコノミーとして具体的な目的を書かないと，事業の達成状況が分かりにくい。
 - ・まちづくりへの参画の機会としてとらえ，主体的で参加型のまちづくりというような方向性を示すのがよい。
 - ・住民のまちづくりへの参画を得るためには，めざす姿や方針を発信し，参加できる状態をつくることが重要である。興味のある人から参加することになるが，その周りに波及し浸透していく。
- また，イベント時，意図的に地元以外の事業者に参加させることも重要である。まちの雰囲気をつかんでもらって，次につながっていく。

第2回懇話会(2024年(令和6年)1月26日)における主な意見

②方針に基づく取組について

- ・取組を継続させるためには、「定番もの」、「トレンドもの」、「チャレンジもの」という区分で、バランスをコントロールしながら全体をプログラムすることが重要である。
- ・福山駅周辺で一番人通りが多いのは、福山駅そのものである。多くの人に見てもらうためにも、福山駅の活用が効果的である。南北をつなぐ方法を検討していきたい。
- ・取組を福山駅周辺に波及させていくためには、面的な取組が必要である。回遊性をテーマに掘り下げていくべき。
- ・イベントカレンダーについては、スマートフォン画面のデザインをメインに考え、既存のユーザー数の多いプラットフォームに載せて、早めにファン層へ発信するのがよい。また、ターゲットが広いので、複数の媒体でバランスよく情報発信していく必要がある。
- ・イベント主催者にとって、相談先が分かれば、取り掛かりやすい。広報がネックとなっている。
- ・福山城公園のインフラは、賑わいづくりという視点では不十分であると考えており、できる範囲で、いろいろな人に参加してもらって、実証を積み重ねて、アイデアを出してもらいたい。
- ・施設には利用規制もあるが、できることも一緒に情報発信していく必要がある。